



# ナ・デックスレポート

第65期 中間報告書

平成26年5月1日～平成26年10月31日

証券コード：7435



投資家のみなさまにおかれましては、平素より当社事業へのご理解とともに厚いご支援を賜り、誠にありがとうございます。

ここに当社第65期第2四半期累計期間(平成26年5月1日から平成26年10月31日まで)の営業状況を報告し、今後の事業展開につきましてご説明させていただきます。ご一読のほどお願い申し上げます。

代表取締役社長 太田 善教

## 「ソリューション提案型の企業」をテーマに掲げ、長期ビジョンに基づく成長を実現していきます。

### Q ▶ 上半期の営業状況についてお聞かせください。

業績面では、主要顧客である自動車関連業界の生産拡大を背景に売上高・利益ともに伸長し、計画を上回る増収増益となりました。また、米国事業を展開するNADEX OF AMERICA CORP.を前第3四半期より完全子会社化し、連結対象に米国セグメントが加わったことで、海外売上高比率は前年度の23.3%から31.8%に上昇しています。

セグメント別の状況では、各地域とも前年同期比で増収

増益を遂げています。日本では、主に国内の自動車関連企業向け・電気機器関連企業向けへの売上を伸ばすことができました。

米国は、売上高割合で13.5%、営業利益割合で38.7%の業績貢献を果たしました。自社製抵抗溶接制御装置や新材料用溶接機器が現地大手自動車関連企業向けに販売実績を上げています。NADEX OF AMERICA CORP.との協業については、開発面の取組みが先行しており、販売・サービスサポート体制の構築や、グループ全体最適の観点からの製造体制の構築については、引続き連携の強化を図ってい

ます。

中国では、日本同様の3事業(エレクトロニクス・コンポーネント、FAシステム、ウェルディング・システム)展開に向けた体制整備が緒に就き、特に電子部品の販売が好調に推移する一方、新興国向け生産拠点としての実績も拡大しました。

そしてタイでは、そうした中国生産品目の販売増加とともに、当期からNADEX (THAILAND) CO., LTD.を連結子会社化したことにより、売上・利益が著しく拡大しました。※業績の詳細につきましては、5頁以降をご参照願います。

### Q ▶ 今後どのような製品開発や提案を進めていきますか？

当社の製品開発およびソリューション提案においては、常に顧客業界のニーズを先取りし、その生産現場をサポートしていく視点が求められます。

ウェルディング・システム事業では、抵抗溶接分野において自動車関連業界の軽量化・リサイクルニーズに対応した新素材用の溶接制御システムが開発テーマの一つとなっています。その一環として、NADEX OF AMERICA CORP.傘下のWELDING TECHNOLOGY CORP.と日米共同で次世代抵抗溶接制御装置の開発を進めています。同時に、板厚の薄いものから厚いものまで、あるいは枚数の少ないものから多いものまで、溶接の大電流化によるバンド幅の拡大にも取り組んでいます。

また、レーザ溶接分野ではモニタリングシステムを当期中に商品化する予定です。同分野については、今後自動車関連

業界における技術の適用範囲を積極的に拡げていく考えです。

FAシステム事業では、将来の普及が見込まれる燃料電池自動車(FCV)等をターゲットに、生産ラインのソリューション提案を推進し、エコカーの進化による未来の市場を見据えた需要獲得を図っていきます。

エレクトロニクス・コンポーネント事業では、生産現場におけるITソリューションの新提案として、部品の次世代ピッキングシステムを開発しました。これはピッキングプロセスを見える化し、作業ミスの低減に効果を発揮するものです。生産性向上への提案を通じて、お客様の現場をトータルにサポートし、より多くの受注を獲得していくことが狙いです。

当社は、これらの新たな付加価値を提供する製品・ソリューションを積極的にアピールすべく、本社および技術センターのショールームで開催するプライベートショーや、各地の展示会への出展に注力しています。

※展示会出展につきましては、4頁をご参照願います。

### Q ▶ 通期業績の見込みと今後の展開をご説明願います。

下半期の営業状況は、足もとで中国における日本車の生産調整が続いており、日本国内の景気動向も予断を許さない状況にあります。米国の好調は引き続き期待できると見えています。通期の連結業績は、以上の見通しを踏まえつつ、上半期の好業績をもって期初の計画を上方修正し、売上高280億円(前期比21.9%増)、営業利益16億円(同104.6%増)、経常利益18億円(同87.2%増)、当期純利益11億円

(同53.1%増)を見込んでいます。

当社は現在、来期(平成28年4月期)を初年度とする中期3ヶ年経営計画を策定中です。これは、今後10年間において「世界中のクルマづくりにナ・デックスの技術がかかわっていること」を目指す「NADEX 2025 VISION」を掲げ、その実現に向けたファーストステップとしての3年間について、目指すべき方向性と業績目標、成長戦略を明確化するものです。

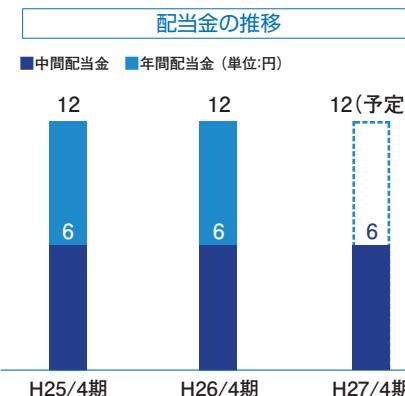
中期3ヶ年経営計画の具体的な内容については、検討を進めている段階ですが、方向性としては「ソリューション提案型の企業」をテーマに、顧客業界に新工法・ソリューションを発信すべく、開発テーマ、製造機能、営業戦略を練り込んでいくものになるでしょう。海外売上高比率は、現在の31.8%から上昇させ、早期に国内と海外の割合を半々とするべく、グローバル展開を加速していきます。

### 株主還元方針に関する考え方

当社の利益配分についての基本的な考え方は、1株当たり配当金を年10円とし、株主への安定的な利益還元を行いつつそれをより高めるとともに、経営基盤、企業体質の強化を図るため、中・長期的見通しに基づき内部留保を厚くして株主資本を充実させるというものであります。

当社の剰余金の配当は、中間配当および期末配当の年2回を基本方針としております。配当の決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会であります。

当事業年度の配当金につきましては、上記基本方針を踏まえつつ、当事業年度の業績を勘案して、1株につき12円(うち中間配当6円)の配当とする予定であります。



### 投資家のみなさまへのメッセージをお願いします。

これからの当社は「IR活動の強化」を課題に掲げ、本決算発表後の機関投資家向け説明会の開催や、個人株主・投資家のみなさまを対象とするコミュニケーション機会の創出に一層注力していく考えです。

将来の成長に向けた財務基盤の強化も必要であり、今後の確かな財務戦略の策定・実施により持続的な事業の発展と企業価値の向上を図るとともに、投資家のみなさまへの情報発信をより充実させ、経営へのご理解をいただけるよう努力してまいります。

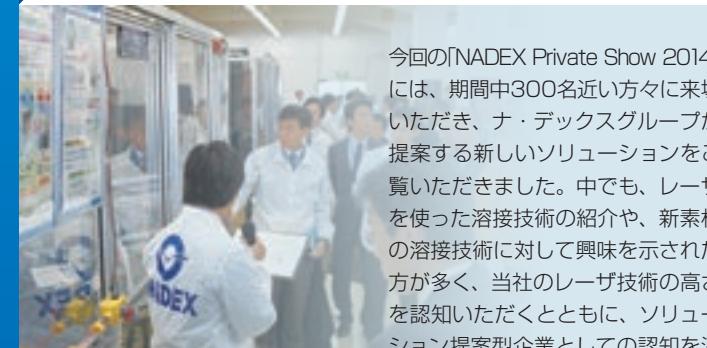
投資家のみなさまにおかれましては、引続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## W展示会でソリューション力を広くアピールいたしました。

当社は、お客様のニーズを先取りし、それを実現するソリューション提案型企業を標榜しており、貴重な提案機会であるプライベートショーや展示会を重視しております。今年は「マルチマテリアルソリューション」をテーマに、11月6日から7日にかけて、プライベートショー開催と、メッセナゴヤ出展の同時展開を図り、それぞれ盛況を博しました。

### プライベートショー2014

～マルチマテリアル ソリューション～



今回の「NADEX Private Show 2014」には、期間中300名近い方々に来場いただき、ナ・デックスグループが提案する新しいソリューションをご覧いただきました。中でも、レーザーを使った溶接技術の紹介や、新素材の溶接技術に対して興味を示された方が多く、当社のレーザー技術の高さを認知いただくとともに、ソリューション提案型企業としての認知を深めていただきました。これからも当社では定期的に展示会を開催し、当社グループが提案するソリューションの数々をご紹介してまいります。

自動で溶接機の先端チップを交換するチップチェンジャー



柔軟にライン変更に対応するポータブルスポット溶接



レーザー式とアーク式の長所を取入れたハイブリッド溶接

最先端の溶接技術についての講演会



### メッセナゴヤ2014

～環境・安全・モノづくり～



部品の選択ミスを防ぐレーザーピッキングシステム

日本最大級の異業種交流展示会である「メッセナゴヤ2014」にブース出展し、新規顧客の開拓を図りました。特に関心が高かったのが、センサーとQRコードを用いて次に使用する部品を示すことで製造ラインのミスを防ぐ次世代ピッキングシステムで、多数の引合いをいただきました。そのほか、大幅な省エネを実現する環境商品や、部品から基盤実装までワンストップで行うソリューションなど、多様なニーズにお応えできる提案力をアピールいたしました。

品質とコストを両立した有機ELスイッチ



エア消費量を半減するエアセーピングユニット



新感覚の“押す”有機ELディスプレイを実現する基盤



電力消費を抑えるクーリングファン

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動減があったものの、設備投資の増加や雇用環境の改善が進むなど、緩やかな回復基調で推移いたしました。世界経済につきましても、米国を中心に緩やかな回復基調で推移しておりますが、中国など新興国の減速懸念や地政学的リスクなどにより、先行き不透明な状況であります。

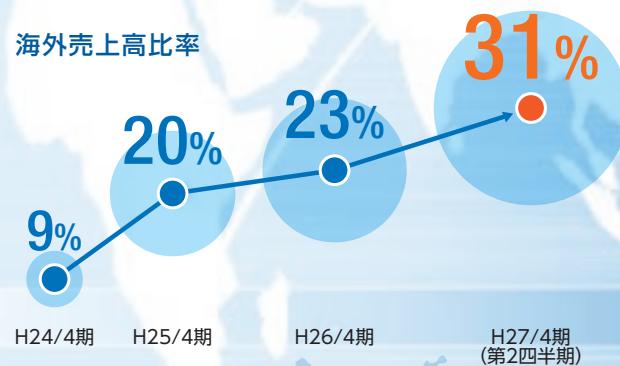
当社グループの主要得意先である自動車関連企業につきましては、消費税率引上げに伴う反動減があったものの、順調な北米販売などを背景に業績は堅調に推移しております。

このような経済環境のもとで当社グループは、得意先の海外生産シフトに対応するべく、メーカー機能、トータルソリューション提案力の強化に努め、グローバルでの均一で高品質な製品・サービスを提供するための体制構築に取り組んでおります。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は140億3千8百万円と前年同四半期に比べ40億4千6百万円(40.5%)の増収となり、営業利益は9億1千5百万円と前年同四半期に比べ5億3千1百万円(138.3%)、経常利益は為替差益7千1百万円の計上などにより、10億4千2百万円と前年同四半期に比べ5億4千2百万円(108.3%)、四半期純利益は6億4千5百万円と前年同四半期に比べ2億4千万円(59.2%)のそれぞれ増益となりました。

なお、前第3四半期連結会計期間において、WELTRONIC/TECHNITRON, INC.(現NADEX OF AMERICA CORP.)の株式を追加取得したことに伴い、同四半期より報告セグメントに「米国」を追加しております。

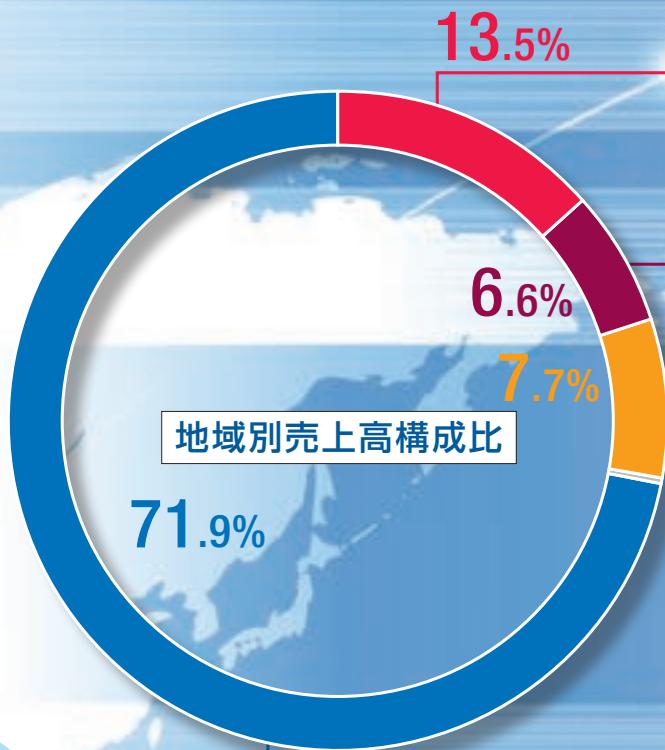
海外売上高比率



日本につきましては、自動車関連企業の国内向け設備投資が順調に推移したことなどにより、売上高は109億1千7百万円と前年同四半期に比べ16億3千9百万円(17.6%)の増収となり、営業利益は3億3千6百万円と前年同四半期に比べ7千4百万円(28.4%)の増益となりました。

## 日本

売上高  
**109.1億円**



地域別売上高構成比

※セグメント間の内部売上高を除く

## 米国

売上高  
**19.1億円**

米国につきましては、自動車関連企業を中心に自社製品の販売を行ったことなどにより、売上高は19億1千5百万円、営業利益は3億5千4百万円となりました。

## 中国

売上高  
**10.5億円**

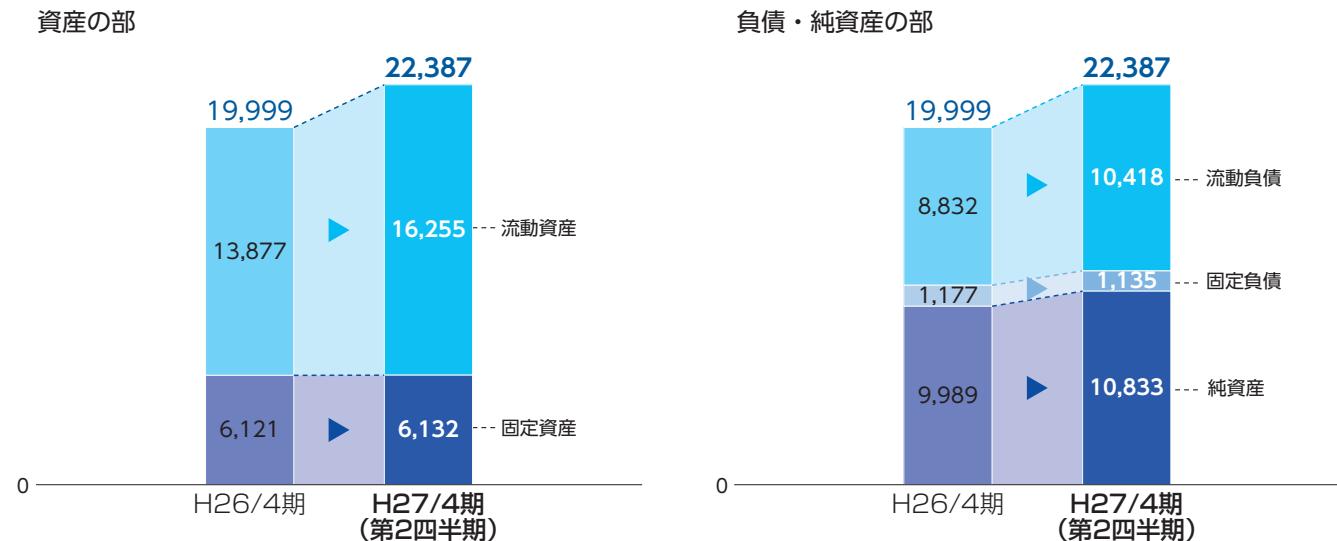
中国につきましては、工作機械関連企業向けの電子部品の販売が順調に推移したことなどにより、売上高は10億5千2百万円と前年同四半期に比べ1億4千4百万円(15.8%)の増収となり、営業利益は9千7百万円と前年同四半期に比べ4百万円(4.8%)の増益となりました。

## タイ

売上高  
**11.5億円**

タイにつきましては、新たにNADEX (THAILAND) CO.,LTD.を連結の範囲に含めたことなどにより、売上高は11億5千4百万円と前年同四半期に比べ6億8百万円(111.6%)の増収となり、営業利益は売上総利益率の改善などにより1億3千2百万円と前年同四半期に比べ1億5百万円(387.5%)の増益となりました。

四半期連結貸借対照表(要約) (単位:百万円)



資産

主に、商品及び製品などのたな卸資産が14億9千万円増加したことに伴い、総資産が23億8千7百万円増加しております。

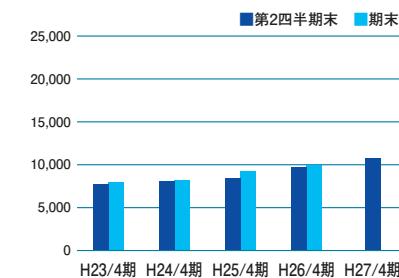
負債

主に、支払手形及び買掛金が7億9千9百万円増加したことに伴い、負債が15億4千4百万円増加しております。

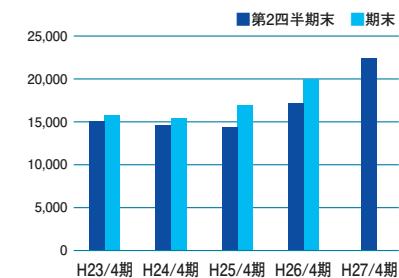
純資産

主に、利益剰余金が6億2千1百万円増加したことに伴い、純資産が8億4千3百万円増加しております。

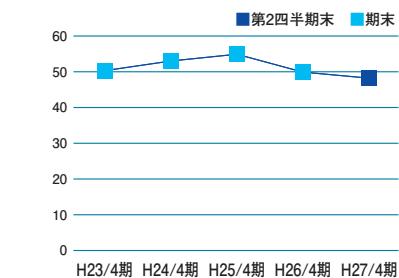
純資産 (単位:百万円)



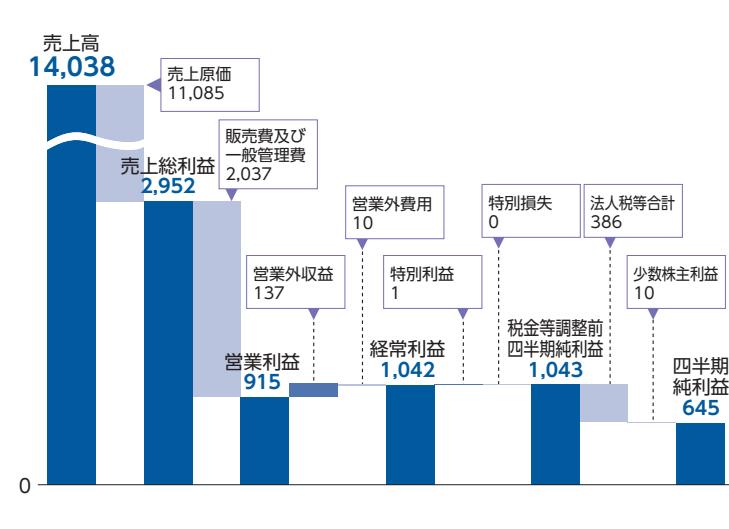
総資産 (単位:百万円)



自己資本比率 (単位:%)



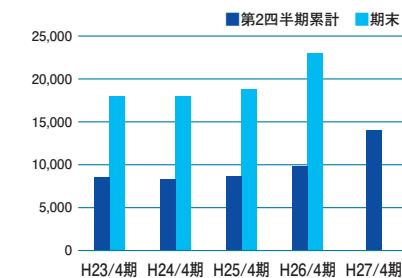
四半期連結損益計算書(要約) (単位:百万円)



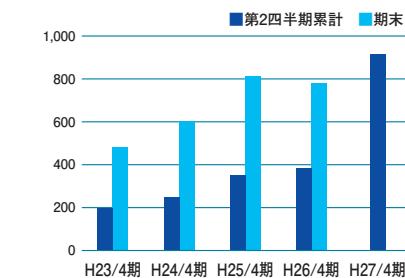
損益の状況

主に、日本における売上高の増加および連結子会社の増加(前年同四半期比6社増加)などに伴い、営業利益は5億3千1百万円、経常利益は5億4千2百万円、四半期純利益は2億4千万円のそれぞれ増益となりました。

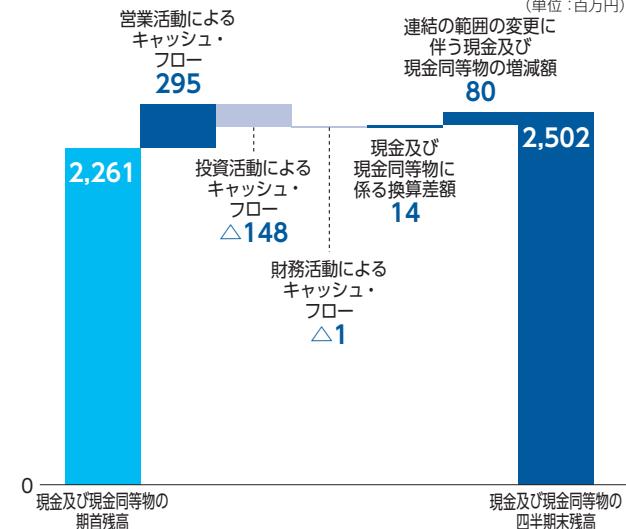
売上高 (単位:百万円)



営業利益 (単位:百万円)



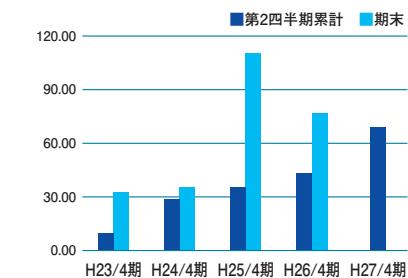
四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要約) (単位:百万円)



営業活動によるキャッシュ・フロー

主に、たな卸資産の増加で13億6千9百万円などの資金を使用しましたが、税金等調整前四半期純利益の計上で10億4千3百万円および仕入債務の増加で6億3千9百万円などの資金を得られたことに伴い、営業活動によるキャッシュ・フローで2億9千5百万円の資金を得られました。

1株当たり四半期(当期)純利益 (単位:円)



■ 会社概要

商号 株式会社ナ・デックス  
(英文名/NADEX CO.,LTD.)

本店所在地 名古屋市中区古渡町9番27号  
TEL (052) 323-2211

設立 昭和25年10月

資本金 1,028,078千円

従業員数 548名(連結)、157名(単体)

■ 役員

代表取締役社長 太田善教

常務取締役 渡邊修

取締役 高田寿之

取締役 福永喬

取締役 古川雅隆

常任監査役(常勤) 武田吉保

監査役 加藤正樹

監査役 伊藤豊彦

執行役員 本田信之

執行役員 横地克典

執行役員 進藤大資

執行役員 佐藤智昌

執行役員 水戸隆

(注) 監査役加藤正樹氏および伊藤豊彦氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

■ 株式の状況

発行可能株式総数 40,125,000株

発行済株式の総数 9,605,800株  
(自己株式287,084株を含む)

株主数 1,043名

■ 大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社アート・ギャラリー富士見	1,400,000	15.02
ビービーエフフォーファイナリティロープライズストックファンド (プリンシパル オールセクター サポートフォリオ) (常任代理人 株式会社三菱東京UFJ銀行)	929,000	9.96
古川佳明	312,000	3.34
古川美智子	285,000	3.05
岡部由枝	267,000	2.86
古川雅隆	211,000	2.26
ナ・デックス社員持株会	207,000	2.22
株式会社三井住友銀行	152,000	1.63
尾崎博明	144,000	1.54
株式会社名古屋銀行	120,000	1.28

(注) 持株比率は、自己株式(287,084株)を除く発行済株式総数に対する持株数の割合であります。

■ 株式分布状況



▶ 拠点

那電久寿機器(上海)有限公司

WELDING TECHNOLOGY CORP.

NADEX ENGINEERING CO.,LTD.

**国内**

**株式会社ナ・デックス**  
本社：名古屋市中区  
東京支店：さいたま市大宮区  
大阪支店：大阪市淀川区  
技術センター：愛知県北名古屋市

**株式会社ナ・デックスプロダクツ**：岐阜県可児市、福井県敦賀市  
その他の拠点：横浜、四日市、尼崎、岡山、北九州

**海外**

米国 ミシガン州  
カナダ オンタリオ州  
メキシコ ケレタロ州  
中国 上海、広州、天津、杭州  
タイ バンコク  
インドネシア チカラン

ナ・デックス本社

ナ・デックスプロダクツ

ナ・デックス技術センター